

### 第3章 研究の手法

本章では、まず「環境の概念」の構築と項目化をおこなう。次に、対象となる論文から「観光論」に関するキーワードの抽出の手順を説明するとともに、それらのキーワードを「環境の概念」に関する項目による読み替えの基準を設定し読み替えた。

#### 3-1 「環境の概念」による分類

##### 3-1-1 「環境の概念」の研究

環境の概念と先行研究として、「環境」の概念の東西比較研究について<sup>1</sup>と、「環境システム研究」における環境理念・環境論の多様性と展望<sup>2</sup>をここでは取り上げる。

前者が「対象化」の意味と「対象」以上の何かがあるということ、「環境へのかかわり方としての概念」を明示している。それに対して後者は「環境の概念」として本研究の指針となる「環境容量」、「循環思想」、「有限思考」、「不確実性」等のキーワードを提示している。これらは、「環境の概念」に包括的に説明する「概念」の存在を明示している。

##### 3-1-2 人間環境系の決定要因

環境論で欠如しがちな概念について、末石は「同じ環境要素の分析法が都市であれ、地球であれ、通用するはずだという discipline の思考のせいではないか。環境の物見台は決して安全ではない。」と指摘し、また「環境 = 空間」の概念の欠如だと述べている。そのうえで、環境問題をみる重要な視点を「境界はどこにあるのかわからないが有限である」、「空間とはものを見る形式である」<sup>3</sup>としている。

また、末石は人間と環境の関係について次のように述べている。

「人間は主体的に環境に働きかける存在であり、かつ動物が自らの身体の形態を変化させることで環境に適応してきた以上に、手足としての道具や、物を介して、また環境システムとしての適応も可能である。人間環境系は相互に関係するものであるという見方にたつて、環境の恵みを認識することで、環境に配慮するという(図式(図 1・2))が描かれるであろう」。<sup>4</sup>

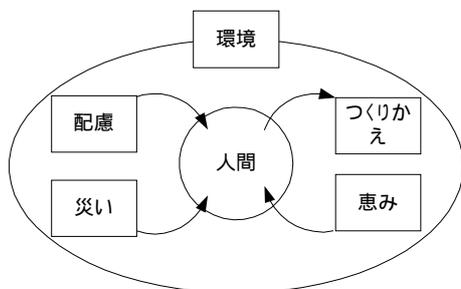


図 3.1 人間環境系の関係

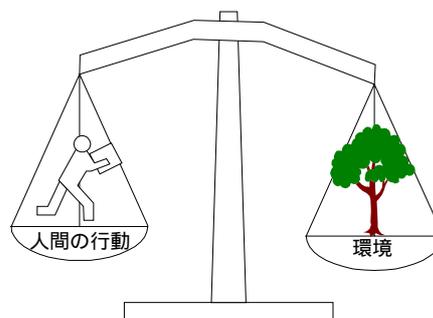


図 3.2 人間と環境のバランス

また、「人間と環境との関わりを考えると、環境への依存や負荷を意識し、行為の意味づけと生活世界の環境情報を把握している理想的な人間のあり方を**ホモ・シグニフィカンス (homo significance)**とよんでいる。」

つまり、人間が**ホモ・シグニフィカンス (homo significance)**でなければ、人間環境系も成立しない。そこで、末石の言うように、人間が**ホモ・シグニフィカンス (homo significance)**たりうるためには、図 3.2 のように人間の行動と環境のバランスをとる必要がある。そのためには、「配慮」と「災い」と「つくりかえ」と「恵み」のバランスとれていなければならない。そのバランスをとる主体は、人間である。人間がバランスをとるためには環境の状態を把握しなければならない。ここで、物的環境の知覚による評価について青木<sup>5)</sup>は、「まずある環境の状態が存在し、その環境からの刺激の認知がされ、刺激が人間の知覚処理過程を経て評価に至り、その評価に基づいて応答がおこなわれるようになる」とこのようにまとめている。ここから、人間の行動が環境とバランスをとるためには、人間が環境を知覚、認知し、その情報をもとに、環境に対してどのように関わるかを決定しなければならないことがわかる。そのためには、それらの情報を判断する「基準」が必要である。ここで、「どのように関わりたいか」を「欲求」とするならば、「基準」は欲求を制御する「倫理」とすることができる。つまり、図 3.2 のように**ホモ・シグニフィカンス (homo significance)**たるには「欲求」=「倫理」のバランスが成立せねばならない。

これらをまとめると、以下の図のように判断基準としての精神、さらに、空間としての環境、そして精神と空間をつなぐ人間の行動、の3つがあげられる。これを以下の図に表す。

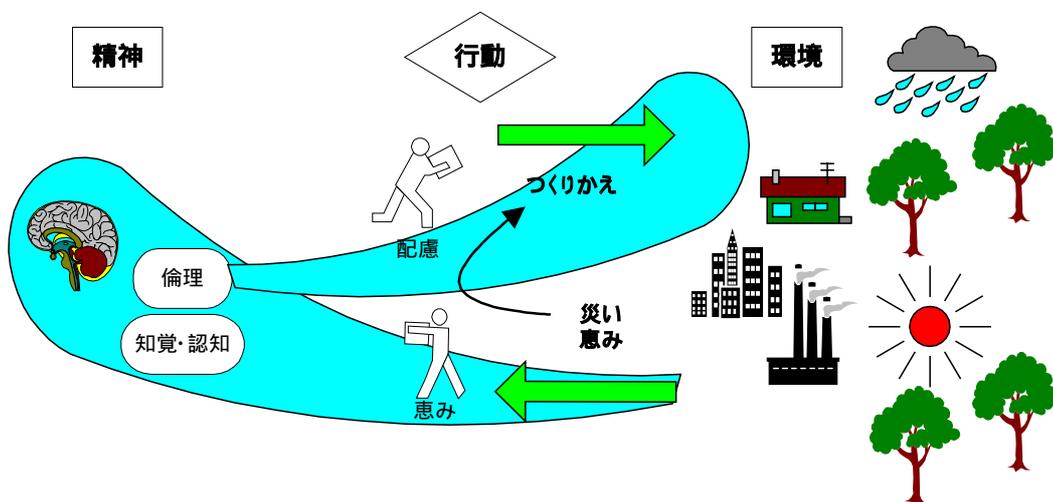


図 3.3 精神と行動と環境のつながり

ここから、環境の概念の項目として以下の3つについてまとめる。

1. 基本概念
2. 人間の行動
3. 地域の空間

### 3-1-3 「環境の概念」の項目化

以上の論議を踏まえ、本研究における「環境の概念」を以下のようにまとめた。

#### ・ 基本概念

先行研究にあるように、「環境の概念」に関して包括的に説明する概念を、基本概念として取り上げる。

#### ・ 人間の行動

人間の行動としては、環境知覚・認識、環境倫理、環境支援行動に関する項目を取り上げる。

#### ・ 地域の空間

まず、地域の空間に関する項目を作成する理由について述べる。本研究で対象とするのは、観光に関する論文であり、個別の観光現象の総体でもある。その観光現象の主体は人間であり、その活動の対象として観光地という空間という関係が成立する。この観光地は、地域の空間性の側面と捉えることができる。したがって、ここでも末石のいう「人間 環境」系が成立しているため、この基準を採用した。

以上より、具体的項目は、環境に関する専門書として評価の高い「環境計画論」<sup>6</sup>と環境に関する行政の報告書である「環境白書」<sup>7</sup>をもちいた。また、地域空間に関する項目作成のために、NIRAによる「地域問題 300 選の概観にある上位問題の項目」をもちいた。この 3 冊を精読して、以下のような項目を作成した。

表 3.1 環境計画論から抽出した「環境の概念」の項目の候補

悪臭・振動	騒音・アイランド現象	ヒートアイランド現象	光害	海洋汚染	閉鎖系水域汚染	地下水汚染	土地環境	化学物質	生物汚染	陸域汚染	野生生物	水生生物	環境多様性	環境イメージ	環境評価	条例	政策	教育	交流	参加	コミュニケーション	リサイクル	国土開発	環境設計	経済成長	生活基盤整備	ごみ	産業廃棄物	下水処理
-------	------------	------------	----	------	---------	-------	------	------	------	------	------	------	-------	--------	------	----	----	----	----	----	-----------	-------	------	------	------	--------	----	-------	------

表 3.2 環境白書から抽出した「環境の概念」の項目の候補

自立性	安定性	循環性	階層性	多様性	加積性	有限性	閉塞性	節欲性	外部空間の知覚方法	心理	志向・欲求	体験・経験	帰属意識	信仰性	価値観	生活の規範・習慣	責任	コミュニケーション	合意形成	計画	住民運動	参加	連携	リサイクル	保護・保全
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----------	----	-------	-------	------	-----	-----	----------	----	-----------	------	----	------	----	----	-------	-------

表 3.3 NIRAによる「地域問題300選の概観」の上位問題の項目から抽出した「環境の概念」の項目の候補

都 市 論	文 化	人 口	計 画	情 報	参 加	立 法	司 法	治 安	行 政	地 域 政 府	流 通	農 林 漁 業	労 働	余 暇	観 光	福 祉	医 療	消 費	土 地 ・ 住 宅	環 境	交 通	教 育
-------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	------------------	--------	------------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-----------------------	--------	--------	--------

### 3-2 論文分析とその手順

#### 3-2-1 「観光論」の抽出

第2章で選び出した論文は197編であった。これらの対象論文に「環境の概念」がいかに関わっているのかを考察するに先立ち、それらが何をどのような視点で扱っているのか、その論理の枠組みを理解するためにキーワードの抽出をおこなった。(APPENDIX 参照)

#### 3-2-2 「観光論」の「環境の概念」への変換

本研究の目的は、「観光論」における「環境の概念」について調査・分析することである。したがって、「観光論」のキーワードとして抽出されたものを、「環境の概念」に関する各項目によって読み替える必要がある。そこで、読み替える基準を各項目ごとにまとめる。

そこで、3-1-3で候補としてあがった「環境の概念」の各項目は、「観光論」のキーワードの読み替え過程を経て以下の表にまとめることができた。また、「観光論」に関するキーワードをこれらの項目に分類していく過程で、類似していると考えられる項目は統合した。そのうち、( )の基本概念や「リサイクル」等の環境に関する項目は、あてはまるキーワードの数が少なくとも残すことにした。また、この分類に関しては異なる分野のものを扱うため、多項目にあてはまる事例や分類しにくいものなどがどこに分類されるのかは筆者の判断で強引に振り分けた。

#### 3-2-3 「観光論」における「環境の概念」の構築

この過程において先の項で取り上げた、、、をそれぞれ基本概念、環境の身体性、環境の空間性と命名し、これを大分類とした。また、大分類と小分類の理解に役立つように、小分類の項目間の関係が類似していると考えられるものを、中分類としてまとめた。

さらに、小分類における各項目の抽出基準と代表例を添えた。代表例は、その項目の表現と似通ったものはなるべくさけ、できる限り特異もしくは、特徴的な物を選んだ。なお、代表例における論文番号はAPPENDIXをもとに構成した。

##### (1) 基本概念に関する項目とその抽出基準

基本概念としては、環境に関する包括的な項目を以下のように設定した。その際、大分類と中分類は便宜上、基本概念・包括的概念とした。

表 3.4 「基本概念」に分類される項目

大分類	中分類	小分類
基本概念	包括的概念	自立性 安定性 循環性 階層性 多様性 加積性 有限性 閉塞性 節欲性

(a) 自立性

抽出の基準

自立性の抽出の基準として、観光地における観光の立場、もしくはその構成や、あり方に関する記述を抽出した。

代表例

- 54 「マストゥリズム」と「もう一つの観光」の共存
- 61 エコトゥリズムとマストゥリズムが補完関係
- 165 観光にかかわる諸活動を訪問者観光者の受け入れ観光地側との相互のコミュニケーション活動の総体とする

(b) 安定性

基準

安定性の抽出の基準として、観光の地域に与える影響とそれに対する反応に関する記述を抽出した。

代表例

- 56 オーバーユースによる町への影響
- 112 個人旅行の増大による斡旋業への逆戻り
- 124 観光客の海外流出と国内観光地の荒廃
- 178 近代化の所産でありながら脱近代化を促進させるアンビバレントな意味を内包

(c) 循環性

基準

循環性の抽出の基準として、観光地としての世間のブームと人気と観光客の誘致に関する記述を抽出した。さらに、循環という言葉のつかわれているものも抽出した。

代表例

3 地獄巡り

83 バトラーの観光地ライフサイクル

143 映画会社をもつテーマパークの強さの構造

119 観光客と画家と画廊を介した循環システム

(d) 階層性

基準

階層性の抽出の基準として、観光地における観光の構造に関する記述を抽出した。

代表例

95 社会的事象としての観光と個人行動としての観光

154 観光者、受け入れる住民、行政、観光企業

157 観光者の種類、観光施設の種類、観光シーズンと金の流れ

(e) 多様性

基準

多様性の抽出の基準として、観光対象や観光客の行動の多様性に関する記述を抽出した。

代表例

10 観光客の増加と希求の多様化

154 観光対象と人間の興味の無限の組み合わせ

155 観光事象は複合的、任意に切り取ることが可能、“実態の部分”は無限

(f) 加積性

基準

加積性の抽出の基準として、地域における観光の発展およびその可能性に関する記述に関して抽出した。

代表例

54 旅行経験をつめばつむほど旅行する

157 地域振興を図る方策としての観光への期待

172 経済の牽引車として期待、国内経済振興

(g) 有限性

基準

加積性の抽出の基準として、観光地の観光客受け入れ容量に関する記述を抽出した。

代表例

- 5 オーバーキャパシティ
- 56 施設許容量と来訪者の不均衡
- 154 定員が厳守される観光対象

(h) 閉塞性

基準

閉塞性の抽出の基準として、地域における観光の発展から安定および衰退に関する記述について抽出した。

代表例

- 54 短期間ゆえの効率性の重視
- 97 経済学、経営学、地理学に偏っている
- 178 ゲスト・ブローカーの支配 / ホストの従属という不平等な関係によるシステムの不均衡問題

(i) 節欲性

基準

節抑性の抽出の基準として、観光客の行動および、観光開発に関して規制、抑制する記述について抽出した。

代表例

- 56 観光客のコントロール
- 61 自然資源の持続可能性の達成
- 88 規範的性格

**(2) 環境の身体性に関する項目とその抽出基準**

環境の身体性として以下の表のように分類された項目に関して、それらを、知覚、倫理、環境支援行動の三つに分類し、これらの中分類とした。

表 3.5 「環境の身体性」に分類される項目

大分類	中分類	小分類
環境の身体性	知覚	外部空間の知覚 心理 志向・欲求 体験・経験
	倫理	帰属意識 信仰性 価値観 生活の規範・習慣 責任
	環境支援 行動	コミュニケーション 合意形成 計画 住民運動 参加 連携 リサイクル 保護・保全

(a) 外部空間の知覚

基準

外部空間の知覚の抽出基準として、観光にかかわる人間の、知覚に関する記述について抽出した。

代表例

- 4 脳のたし
- 5 耳の旅
- 15 プロレスラーの身体性
- 67 視線の輸入
- 143 能動的行動に応じた遊びのしかけ

(b) 心理

基準

心理の抽出の基準として、観光にかかわる人間の心理状態に関する記述について抽出した。

代表例

- 37 住民意識の変化
- 51 競争意識と世俗化
- 102 ジェンダー意識
- 185 想像力が土地のもつ価値を高める

(c) 志向・欲求

基準

志向・欲求の抽出の基準として、観光にかかわる人間の志向および、欲求に関する記述について、抽出した。

代表例

- 13 旅で眠りたいと言う願望
- 143 懐かしさを感じるしかけ
- 180 ご来光を拝む、目的性の強さ

(d) 体験・経験

基準

体験・経験の抽出の基準として、観光にかかわる人間の体験、および経験に関する記述について抽出した。

代表例

- 4 戦争アトラクション
- 15 宗教体験としての苦行
- 63 大人への通過儀礼
- 180 P&BR 体験による意識の順応に対する学習効果が期待できる

(e) 帰属意識

基準

帰属意識の抽出の基準として、観光にかかわる人間のアイデンティティや、帰属意識に関する記述について抽出した。

代表例

- 3 観られる物の意識の共犯関係
- 64 性役割の再生産
- 102 ナショナリティの重層化の顕在
- 115 儀礼や祭りのへの参加と異文化理解と他者性

(f) 信仰性

基準

信仰性の抽出の基準として、観光と宗教のかかわり、および観光客や観光地における信仰に関する記述に関して抽出した。

\_\_\_\_代表例

4 都市聖霊の記録

46 人間の旅と靈魂の旅の交錯

163 キリスト教による高地民族のアニミズム信仰を邪教として排斥、精霊の存在、

(g) 価値観

\_\_\_\_基準

価値観の抽出の基準として、観光にかかわる人間の価値観に関する記述に関して抽出した。

\_\_\_\_代表例

4 差異化のユートピア

45 普遍性と独自性の葛藤

184 季節の美に感ずる、雪月花は移り変わる季節の折々の美を象徴する伝統的な言葉

(h) 生活の規範・習慣

\_\_\_\_基準

価値観の抽出の基準として、観光にかかわる人間の生活の規範や習慣に関する記述を抽出した。

\_\_\_\_代表例

34 軍隊特有の生活様式

53 電飾の習慣

129 ペットの家族化

159 秩序ある滞在生活を送るための生活ルール

(i) 責任

\_\_\_\_基準

責任の抽出の基準として、観光にかかわる人間の責任に関する記述を抽出した。

\_\_\_\_代表例

12 社会的マナーと人間関係のエチケットを学ぶ

71 しかけ人たちのモラル

110 最低限の国際マナー

(j) コミュニケーション

基準

コミュニケーションの抽出の基準として、観光にかかわる人間のコミュニケーションに関する記述を抽出した。

代表例

- 45 ねぶたとよさこいの競合性
- 107 記号化されたメッセージ、異文化を解読する方法、視点が異なることを認識
- 110 観光者や観光地のタイプに応じた現地ガイドのはたらき
- 197 観光対象となる人々や土地のめぐる表象が構築され、流通する制度

(k) 合意形成

基準

合意形成の抽出の基準として、観光にかかわる人間における合意形成についての記述を抽出した。

代表例

- 7 地域整備と利用者の態度の合致
- 89 サービスに対する共通基盤作り
- 159 定例総会による議決と会員相違で協会が自治運営

(l) 計画

基準

計画の抽出の基準として、観光にかかわる計画についての記述を抽出した。

代表例

- 4 めぐりの計画性
- 169 スキー場設計の要点としてコースの形状とスキー場側のイメージ形成要因への着目
- 173 観光地域のゾーニング

(m) 住民運動

基準

住民運動の抽出の基準として、観光にかかわる住民運動についての記述を抽出した。

代表例

- 127 ボランティアは人間の成長する上で不可欠な精神活動
- 156 西洋人によるリゾート整備の要請、開拓政策に対する地元との連携による反対運動
- 174 住民による運営母体の確立と環境保全のための仕組み作り

(n) 参加

基準

参加の抽出の基準として、観光にかかわる人間の参加についての記述を抽出した。

代表例

- 37 うつぐみという協力の精神
- 55 発言権を得るための出資
- 165 地域外住民を巻き込む

(o) 連携

基準

連携の抽出の基準として、観光にかかわる人間の連携についての記述を抽出した。

代表例

- 4 市民と画家、建築家の共作
- 106 零細農家による土地の提供とオーナー制度
- 182 遺産に対する考え方は地域によって異なるものの、交際社会の働きかけが大きく作用

(p) リサイクル

基準

リサイクルの抽出の基準として、観光にかかわる人間のリサイクルについての記述を抽出した。

代表例

- 4 リサイクル技術と文化
- 73 使い捨て方式からリロード方式
- 108 リサイクルルートの確立の遅れ

(q) 保護・保全

基準

保護・保全の抽出の基準として、観光にかかわる自然環境に関する保護および、保全についての記述を抽出した。

代表例

53 ゾーニングシステム

57 知的所有権の保護

185 避暑概念の自然景勝地保護、思想活用に埋没

(3) 環境の空間性に関する項目とその抽出基準

環境の空間性として以下の表のように分類された項目に関して、それらを、要素特性、権力性、資本性、公益享受性の四つに分類し、これらの中分類した。

表 3.6 「環境の空間性」に分類される項目

大分類	中分類	小分類
環境の空間性	要素特性	自然・地理 歴史・文化 風土・景観 エネルギー・廃棄物 人口
	権力性	政策 行政 法律・条例 開発
	資本性	産業 経済 消費 サービス 労働・所得 情報・広報
	公益享受性	税金 交通 医療・福祉 教育 余暇

(a) 自然・地理

基準

自然・地理の抽出の基準として、観光にかかわる自然環境や生態系、観光地の地形および地理に関する記述について抽出した。

代表例

65 需要の季節性が生じる

109 自然への添景意識の強まり

159 理想的避暑地環境として「湖」が不可欠

(b) 歴史・文化

基準

歴史・文化の抽出の基準として、観光そのものや、観光対象および観光地の歴史や文化に関する記述について抽出した。

代表例

- 62 動物園は自然を文化化する
- 72 境空間の文化的社会的生産
- 76 愚行の歴史

(c) 風土・景観

基準

風土・景観の抽出の基準として、観光地の風土や景観に関する記述について、抽出した。

代表例

- 4 観光ルートのシンボル化
- 94 チャイナタウンの景観維持
- 130 夜の演出

(d) エネルギー・廃棄物

基準

エネルギー・廃棄物の抽出の基準として、ごみに関する記述も含めたエネルギーや廃棄物に関する記述について抽出した。

代表例

- 4 永久移動とごみ問題
- 95 分不相応消費
- 108 省エネへの取り組み

(e) 人口

基準

人口の抽出の基準として、観光地の人口および、観光による交流人口に関する記述について抽出した。

代表例

- 9 朝鮮人コミュニティへの逃亡と吸収
- 82 日帰り客の急増
- 129 潜在的顧客に照準

(f) 政策

基準

政策の抽出の基準として、観光に関係し、影響を及ぼす政策に関する記述に関して抽出した。

代表例

- 47 海外渡航の自由化
- 104 規制緩和の推進による活発な競合
- 155 実務的要請の研究成果

(g) 行政

基準

行政の抽出の基準として、行政の観光への関わりかたや、その扱いに関する記述について抽出した。

代表例

- 142 監督官庁の不在
- 188 モデル視察経路に含まれる道庁のある種の意図と戦略
- 191 中央主導でなく地方主導による地域づくり

(h) 法律・条例

基準

法律・条例の抽出の基準として、観光にかかわる法律や条例に関する記述を抽出した。

代表例

- 90 旅行者保護のための規則の強化
- 94 南京町の商標登録
- 189 社会的通年としての遵法精神の促進

(i) 開発

基準

開発の抽出の基準として、観光にかかわる開発に関する記述を抽出した。

代表例

- 71 未確認生物を観光客獲得の手段
- 81 インターネットのインフラストラクチャーの整備
- 190 「地域づくり」の装置としてのエコツーリズム

(j) 産業

基準

産業の抽出の基準として、観光にかかわる産業に関する記述を抽出した。

代表例

- 2 インディオ宗教は商品
- 64 愛国教育と観光市場の交差
- 128 社員の観光地知識不足

(k) 経済

基準

経済の抽出の基準として、観光地の経済についての記述を抽出した。

代表例

- 4 インカインドエコノミー
- 42 アメリカンエンターテイメントによる蘇生
- 182 世界遺産は観光の目玉商品

(l) サービス

基準

サービスの抽出の基準として、観光地や観光産業による、観光客へのサービスやもてなしについての記述を抽出した。

代表例

- 3 女車掌
- 4 接遇施設
- 74 ヒーリングとホスピタリティ

(m) 労働・所得

基準

労働・所得の抽出の基準として、観光地における労働や、観光にかかわる人間の所得についての記述を抽出した。

代表例

- 5 児童売春が社会問題
- 96 住民の収入のしくみづくり
- 161 主婦の労働力の余剰による民宿開業

(n) 情報・広報

基準

情報・広報の抽出の基準として、観光地の情報や観光産業による観光地の宣伝についての記述を抽出した。

代表例

- 4 光の意思
- 23 東京のジャーナリズムに作られる文化
- 138 標識地図の提案

(o) 税金

基準

税金の抽出の基準として、税金と観光のかかわりについての記述を抽出した。

代表例

- 42 税金の優遇制度
- 159 会費や利用料金による運営
- 163 入村料の徴収

(p) 交通

基準

交通の抽出の基準として、観光における観光地の交通体系や観光客の移動についての記述を抽出した。

\_\_\_\_代表例

- 17 船の積荷と航路
- 77 駅弁文化
- 147 交通の公共性の欠如

(q) 医療・福祉

\_\_\_\_基準

医療・福祉の抽出の基準として、観光の目的としての医療や福祉についての記述を抽出した。

\_\_\_\_代表例

- 4 福祉観光
- 92 湯治的雰囲気
- 144 高齢者の福祉と生活の質

(r) 教育

\_\_\_\_基準

教育の抽出の基準として、教育と観光の関係および観光教育や環境教育についての記述を抽出した。

\_\_\_\_代表例

- 4 観光研究所の設立
- 64 博物館は愛国教育
- 96 教育プログラムの必要性

(s) 余暇

\_\_\_\_基準

余暇の抽出の基準として、観光客の余暇時間や休暇についての記述を抽出した。

\_\_\_\_代表例

- 24 長期休暇の取りにくい休暇制度
- 54 アジアは短期間の旅行
- 144 ゆとりの潮流

### 3-3 「観光論」の「環境の概念」に関する項目による 1-0 分類

このようにして分類された 46 個の項目に関して、これらの結果を記述的統計量として評価・分析

するため、「観光論」のキーワードが「環境の概念」の各項目にある場合を「1」とし、ない場合は「0」とした。これらをそれぞれの分類についてまとめた。

### 3-4 本章のまとめ

本章では、対象文献から「観光論」をキーワードとして抽出をおこなった。さらに、「環境の概念」を構築し、それを項目および、その特徴的な記述を代表例としてまとめた。さらに、「観光論」として抽出されたキーワードを「環境の概念」の46項目ごとに1-0で分類し、「観光論」における「環境の概念」としてまとめた。この「1-0」に分類されたものを集計した結果を以下に表す。

表 3.7 全46項目の記述個数

大分類	中分類	小分類	合計
基本概念	包括的概念	自立性	10
		安定性	10
		循環性	20
		階層性	14
		多様性	8
		加積性	11
		有限性	6
		閉塞性	8
		節欲性	4
環境の身体性	知覚	外部空間の知覚	23
		心理	31
		志向・欲求	63
		体験・経験	45
		帰属意識	43
	倫理	信仰性	17
		価値観	49
		生活の規範・習慣	49
		責任	13
		コミュニケーション	31
	支援行動	合意形成	18
		計画	15
		住民運動	13
		参加	20
		連携	19
		リサイクル	6
保護・保全		28	
環境の空間性	要素特性	自然・地理	25
		歴史・文化	79
		風土・景観	20
		エネルギー・廃棄物	10
	権力性	人口	30
		政策	47
		行政	53
		法律・条例	15
		開発	69
	資本性	産業	80
		経済	37
		消費	50
		サービス	71
		労働・所得	35
		情報・広報	88
		税金	10
	公益享受性	交通	41
		医療・福祉	12
		教育	28
		余暇	29
合計			1403

---

<参考文献および引用文献>

- <sup>1</sup> 山田全紀・平塚彰:「環境」の概念の東西比較研究について - K.西田と M.シェーラーの場合 - 環境システム研究, Vol. 22, pp109-114,1994
- <sup>2</sup> 近藤隆二郎:「環境システム研究」における環境の理念・環境論の多様性と展望,第28回環境システム研究論文発表会 講演集, pp45-54,2000
- <sup>3</sup> 末石富太郎:環境学ノート,P63,世界書院,2001
- <sup>4</sup> 末石富太郎+環境計画研究会:環境計画論, pp13-14, 森北出版,1993
- <sup>5</sup> 青木陽二:環境知覚に関する最近の研究動向,環境情報科学,22-3, pp74~86,1993
- <sup>6</sup> 末石富太郎+環境計画研究会:環境計画論, 森北出版,1993
- <sup>7</sup> 環境庁:環境白書,2000